

スマイル&ハート

浜田医療センター情報誌

夏号



(平成23年8月)

◆発行責任者◆

浜田市浅井町777番地12

浜田医療センター院長 石黒 眞吾

TEL 0855(25)0505

h-page

<http://www.hamada-nh.jp>



(平成23年度 新採用者宿泊研修：千畳苑にて)

浜田医療センターの理念

基本方針

患者さんの権利

「心のこもった、情のある医療」

1. 健康を守る 2. 高度の医療 3. 地域連携

- 人格・価値観が尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を得る権利
- 自己決定の権利
- 個人情報を守られる権利



◇ 目 次 ◇

里帰り分娩の休止(当面)について ……2	災害トリアージ研修・エマルゴ
医師紹介 ……2	(災害医療机上シミュレーション)演習実施! …7
東日本大震災 医療班活動を終えて …3	リアルタイム3D心エコー ……8
看護の日記念行事を開催して ……4	看護学校だより ……9
シリーズ認定看護師 ……5	地域医療連携室からのお知らせ ……10
永年勤続表彰を受けて ……5	病院利用者の方からの声・対応 ……10
新人看護師1年を振り返って ……6	編集後記 ……10

里帰り分娩の 休止(当面)について

国立病院機構浜田医療センター
院長 石黒 眞吾



平素より、本院の運営に関しご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

新聞紙上でも掲載されましたが、益田赤十字病院の産婦人科医師の減少に伴い本院でのお産希望が相当数増加することが予想されます。

本院のお産件数は過去5年間で2倍以上に増加しており、本院では、これ以上のお産を取り扱うことは困難と考え、島根県西部の産科機能を維持するためには今まで受け入れていた里帰り分娩を当面の間休止せざるを得ないという判断をいたしました。

今後、本院で妊婦検診または出産が出来る方は、浜田市、江津市、益田市に住民票をお持ちの方に限らせていただきます。(但し益田市については、益田日赤病院産婦人科が発行した浜田医療センター宛の紹介状を持参された方のみとする)

婦人科の患者さんについては、今までどおりの対応とさせていただきます。

本院への受診を希望されている方、地域の皆様方には大変ご不便をお掛けいたしますが、かかる事情をご賢察の上、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

本院は島根県西部の周産期医療を守るべく、より一層の努力をしていく所存です。今後とも患者さん、地域の皆様方の変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年5月20日

医師紹介



平成23年7月1日より皮膚科 進藤真久先生
を新たに迎えました。よろしくお願いいたします。

進藤 真久 (しんどう まさひさ)

鳥取大学医学部 平成7年卒業

鳥取大学大学院 平成11年卒業

医学博士

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

東日本大震災 医療班活動を終えて

救命救急センター 救急認定看護師 富田 晶子

今回の大震災で国立病院機構は DMAT 隊の派遣と仙台医療センターでの重症救急患者の受入れ等を実施し、宮城県現地対策本部を立ち上げ医療班による避難所での診療を行いました。この医療班の活動に浜田医療センターも参加しました。派遣期間は4月6日から4月10日、構成員は医師・薬剤師・事務職員・看護師の計5名で、私は看護師としてこの活動に参加させて頂きました。

派遣先では、仙台医療センターを拠点として東松島地区の避難所の巡回診療を実施し、各避難所のニーズや課題を保健相談センターへ報告するという活動を行いました。3日間で7か所の避難所を回り123人の診療を行いました。慢性疾患の増悪や不眠、花粉症上気道炎といった症状が主であり、津波で病院が流されてお薬が手に入らないことや瓦礫による粉塵の影響、受けたストレスや生活環境によるものが考えられました。診療を通して優しい気遣いや笑顔をみせて下さった避難所の方々のお姿に深く感銘しました。

復興には現実的な手立てが必要であり、1人1人が関心を持って、できる努力を続けていくことが大切であると考えます。また、災害時の備えについて、個人で危機感を持ち続けていくことは困難です。今回の経験を教訓に病院全体で災害時への対応について取り組んでいきたいと考えています。



東松島地区でともに活動した
災害医療センター医療班と地区の保健師さん



東松島地区で巡回診療を行った避難所





看護の日記念行事を開催して



浜田医療センター 副看護師長 前田 久美子

展示ポスター

浜田医療センターでは、5月12日（木）「看護の日」の記念行事を行いました。今年は「看護の心をみんなの心に〜地域に届けよう看護の心を〜」をテーマに行事が開催できました。また、患者様に癒しの空間を提供できるようプログラムを構成し開催しました。

まず、5月9日〜5月13日まで、展示コーナーを設営し、各部署の職場紹介のポスターを作成し展示しました。ポスターに写真やイラストを描いた職員紹介など、手作り感のあふれるものばかりでした。患者様の中には、ポスター1枚・1枚見ながら、「ここの病棟の看護師さん知ってる」と笑顔で会話されている方もおられました。また、患者様ばかりでなく、職員も楽しそうにポスターを覗いている姿が印象的でした。

5月12日の看護の日当日は午前中、1階エントランスホールにて外来患者様や家族を対象とし「健康相談」を行いました。内容としては、血圧測定・体脂肪率測定・骨密度測定・物忘れテスト・乳がんモデルでの触診の仕方、医師・薬剤師・栄養士による個人相談を行いました。測定・相談をされる方には、手作りで作成した「個人カルテ」を配布し測定値と相談内容を記入し、持ち帰っていただきました。

骨密度を測定された方の中には「骨粗しょう症の薬を飲んでるんだけど、今回の測定で効果が出ているのがわかってよかった。ちゃんと飲まないといけないのね。」と改めて自覚された方がおられました。

また、物忘れテストでは、「物忘れがあると結果が出たらどうしよう」と言われながらもテストを受けられた結果が「問題なし」とでた途端「テストをして安心した」と言っていたいき、短い時間でしたが安心も提供することができたと感じる瞬間でした。

午後は、2階ラウンジにて院内の保育園児の遊戯・アカペラ合唱団「アカペラーズ」による合唱を楽しんでいただきました。

園児達は、かわいらしいはっぴ姿で登場し、観客の手拍子に合わせて、ステージが狭く感じるくらいに元気いっぱいに演じてくれました。手拍子をしている患者様を自然と笑顔にしてくれる園児達との時間でした。

アカペラーズのみなさんは、患者様が口ずさむことができる曲をたくさん披露してくださいました。心に響くすばらしい息の合った歌声でした。

研修センター内では、ハンドマッサージ・リンパマッサージ・元気の出るメイクを行いました。ハンドマッサージを受けられた方の中には「なかなかマッサージを受けることはない。気持ちよかった。」と言っていました。また「家でもやってみたい」と言ってくださる方や、順番待ちをされる方もおられ、たくさんの方に喜んでいただきました。そして今年は、日頃の看護の場面での看護師の笑顔と愛らしい眼差し、患者様のほほ笑みから癒しを感じてもらえるようなDVDを作成し上映しました。

「看護の日」の記念行事を通して沢山の方との交流の時間を持つことができました。笑顔になることや、安心と思える時間は、癒しを提供するためには必要だと感じることができました。今後も、患者様に癒しを感じていただけるよう情のある心のこもった看護を提供していきたいと思いました。



骨密度は
沢山の方が測定
していました。

園児達の
かわいい
お遊戯姿です。



ハンドマッサージ
を体験して
いただきました。





シリーズ

認定看護師

緩和ケア認定看護師 竹元 千恵



わたしは、平成 22 年に緩和ケア認定看護師になりました。

「緩和ケア認定看護師」の役割を紹介します。

1. 患者を全人的に理解し、専門的技術を用いて苦痛の軽減を図り、患者と家族の QOL を考慮し、療養の場に応じた日常生活の充実に貢献する。
2. 患者と家族が体験する喪失と悲嘆のプロセスを理解し、グリーフケアなどの適切な支援を行う。
3. 苦痛を軽減する専門技術を生かし、チームメンバーへの適切な指導や相談を担う。
4. 緩和ケアにおける看護の役割を理解し、施設内および地域におけるチーム医療を効果的に促進できるような役割を果たす。
5. 緩和ケアを受ける患者と家族の人権を擁護するために、適切な倫理的判断を行う。

私は、緩和ケア病棟で勤務しています。

緩和ケアはがんが診断されたときから、始まります。がんが診断されたときはひどく落ち込むことや落ち着かない、眠れないこともあるかもしれません。治療の副作用や痛みが強いままでは、がんの治療自体や生活がづらいものになってしまいます。自分らしさを保つことや、生活スタイルの確保などそれぞれの患者さん・ご家族の生活を支援していきたいと考え、医師、薬剤師、栄養士など医療スタッフで構成される緩和ケアチームの一員として活動しています。

緩和ケア病棟やがん相談支援センターでは、緩和ケアに関する相談をいつでも受け付けています。

話してみようかな？相談してみようかな？と思われたらいつでも声をかけてください。



永年勤続表彰を受けて

臨床検査科 副臨床検査技師長 宮野 秀昭

勤続 30 年の永年勤続表彰、誠にありがとうございました。

30 年前、臨床検査技師として第一歩を踏み出したのは国立岩国病院でした。配属された生化学検査室では、巨大な自動分析器を相手に悪戦苦闘の日々が待っていました。サンプルカップに分注された検体を順番どおりに分析器にかける、印刷されて出てくる大量の結果データを急がされながら台帳に記入し、その台帳から報告書に転記するという業務は、いつ間違いが起こっても不思議はないという状況でした。

今ではバーコードラベルが貼付された採血管そのものを測定器にかける、データはオンラインで検査システムへ送信される、前回値や他項目データを参照してのデータ承認作業など、当時とは比較にならないほど環境が整っているように思います。

一方、この 30 年間は医療を取り巻く環境が大きく変化した時期でもありました。国立病院から独立行政法人国立病院機構へ体制が変わり、診療報酬の引き下げが続き、包括医療が開始され、医師不足による地方医療の困窮が大きくなる中、患者様の医療に対する要望も高度なものへと変化してきました。そんな激動の 30 年間でしたが、岩国病院、大竹病院（現広島西）、浜田医療センターと 3 施設でご指導いただいた先生方や先輩方、共に働いた仲間や家族に支えられ今日まで充実した気持ちで仕事が出来たこと、とても感謝しています。これから定年までの残された期間、永年勤続表彰を励みに私自身さらに精進する事は勿論、部下や後輩達を指導し支える事に力を注いでいく覚悟です。



新人看護師1年を振り返って

3階北病棟 森田 美咲

1年間、看護師として3階北病棟で看護を行い、多くの患者様と出会い、多くの学びを得ました。1年目の2月より、重症患者様の多いチームに異動となり、プレッシャーから、何度も病棟ムに行きたくないと思うことがありました。そんな時、患者様やご家族の方から「あなたがいてくれてよかった。」「明日はいないんだね。残念だな。」と声をかけて頂いたことで、また頑張ろう、もっと勉強しようという気持ちになり、とても励みになりました。今後も自己研鑽に努め、患者様やご家族の声を大切に看護を行いたいと思います。

3階南病棟 東郷 那奈

浜田医療センターに勤め始めて約1年が経ちました。1年間を振り返ってみると、いつも新人支援看護師やプリセプターをはじめ病棟のスタッフの方に支えられて、看護師として少しずつ成長することができたと思います。

患者様に「あんたのおかげで、痛みがとれて楽になったよ。ありがとう。」と声を掛けて頂いた時はとても嬉しく、看護師になって良かったと思いました。今後も、患者様の視点にたって考えられるような看護師を目指し日々知識や技術を磨いていきたいです。

4階北病棟 多々納 彩

助産師として働いて1年3ヵ月、たくさんのお会い、喜びがありました。

新人として入って間もない頃、初産婦さんのお産をとらせていただきました。元気な男の子。お母さんにそっくりで、とても可愛かったのを覚えています。その方が退院されるとき、私にこう言って下さいました。「この子をとりあげてくれて、本当にありがとうございました。一緒に写真を撮ってくれませんか？」お母さんの笑顔、そして“ありがとうございました。”という一言が本当に嬉しく、赤ちゃん、お母さん、お父さん、私の4人で撮った1枚の写真は、私の大切な宝物です。お腹の中に授かった命の誕生を、お母さんそして家族とともに迎えられることに感謝し、これからもがんばっていききたいと思います。

4階南病棟 安部 美佳子

看護師になり一番印象に残っているのは、始めて体験した患者様の死でした。私は初めて患者様の死に立会い、どうしたらよいのか分かりませんでした。先輩看護師の患者様や家族に対する接し方や声掛けに、多くの学びを得ることができました。2年目になった今でも、死が近づいている患者様や、その家族に対する接し方や声掛けには悩むことも多くありますが、最期の時を少しでも良いものにできるように関わっていききたいと思います。

5階北病棟 白根 梨奈

初めて実際に活動する看護という社会で、分からないことや戸惑いで本当に精神的にも、身体的にもしんどい1年でした。私が勤務している病棟は退院支援を行う病棟なのですが、寝たきりの方、何かしら援を必要とする方、認知症の方が多い病棟です。医の介助が必要な方、認知症の方が多い病棟です。医療処置などは他病棟に比べ少なく、介護がメインであり、身体的辛いことが多いのですが、患者様から「ありがとう」という言葉を聴くと、こんな小さな介助でもやって良かったと思い、もっと頑張ろうという意欲がわいてきます。わからないこと、学ぶことが多いのですが、先輩達のような素敵な看護師になれるように日々頑張っていきたいです。

5階南病棟 田川 彩花

看護師として働き始めて、あっという間に1年が過ぎ、早くも2か月経ちました。1年目は、念願であった看護師としての業務や職場に慣れることで1日1日を精一杯に過ごしていました。そんな毎日でも、患者様から「最近顔見なかったね、いつも元気だね」と声をかけてもらう事が、不安な中でも小さな自信に繋がっていきました。今では、処置技術や看護アセスメントなどが出来る事や視野も広がり、自分の行う看護にも自信がついてきましたが、まだまだ不安な事ばかりで先輩方のフォローがとてもありがたく感じます。これから「自分の目指す看護師」になれるよう頑張っていきたいと思います。

災害トリアージ研修・ エマルゴ(災害医療机上シミュレーション)

演習実施！

救命救急センター 副看護師長 坂本 栄美子

昨年12月に浜田医療センター災害マニュアルを改訂し、今回は、新しく改訂された災害マニュアルの検証を行うため、島根県立中央病院の救命救急科の皆さんに協力をしていただき、研修会を実施しました。

当日は、院長、看護部長、事務部長など病院幹部の皆様、医師、看護師、事務部門、放射線科、薬剤科、看護学校の先生方、消防や済生会江津総合病院の看護師など総勢100名以上の参加をいただき、にぎやかに開催されました。

午前中は、災害についての講義とトリアージの演習でした。グループに分かれての演習

では、看護学生が、迫真の演技で傷病者の役になり、実際にトリアージを行っていききました。「歩けますか?」「歩けるので、緑です。」とあちこちで声が聞こえてきました。皆さん真剣そのものでした。

午後からは、ホワイトボードとミニチュア人形を使ったエマルゴ演習をしました。地震が発生し、列車の横転事故が起き、多数傷病者が発生したという設定でした。職員は、自分の日頃勤務している場所のホワイトボードの前に立ち、実際に傷病者の受け入れ、本部や各部門への情報伝達をインストラクターの方に指導を受けながら行っていました。救急外来からは「看護師と医師が2名ずつ足りません。応援お願いします」災害対策本部からは「患者はどんな人が何人来てるの? 報告がないよ」など大混乱状態でした。いつの間にか、軽症の患者を受け入れる場所が2箇所できていました。実際の災害が発生したらどうなるでしょうか?

最後は、記者会見の場面がありました。管理課長の司会で、院長、看護部長、事務部長が会見を行い、カメラのフラッシュが焚かれ、記者からの質問が飛びます。院長は、落ち着いて受け入れの状況を説明されました。

今回の振り返りでは、「災害マニュアルを読んで日頃から危機管理を持ちたい」「実際に体験することが出来て良かった」など様々な意見があり、職員に災害受け入れに対しての意識付けが出来たのではないかと思います。また、マニュアルの内容や使用方法に対する意見をいただき、今後マニュアルの見直しを行い、実際に活用できるようにしていきたいと思っています。



トリアージ実践中



エマルゴで使ったホワイトボード



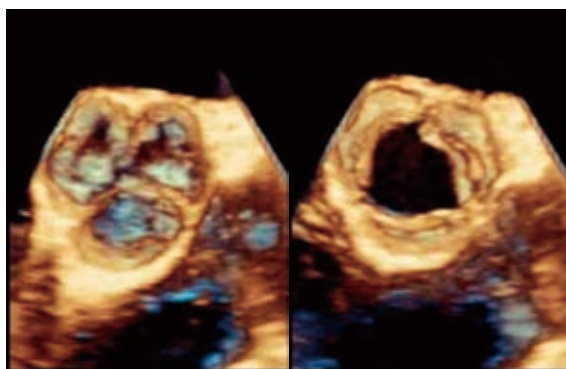
記者会見

リアルタイム3D心エコー

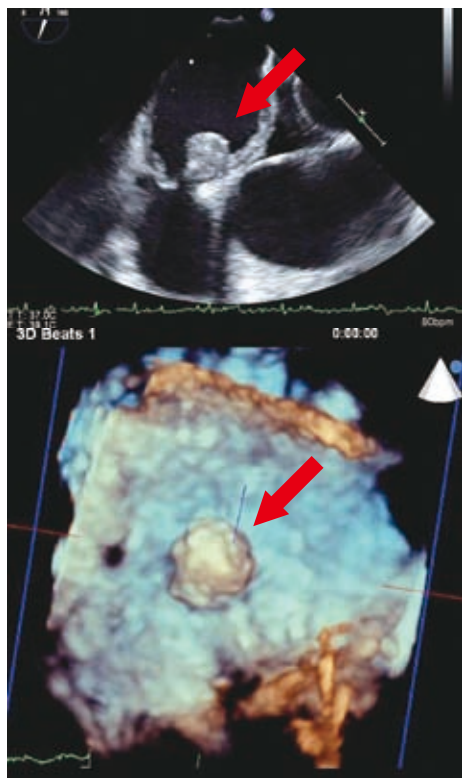
当院循環器内科・生理検査室では Philips 社製 iE33 を導入し、最新のリアルタイム 3D エコー装置による心エコー図診断に取り組んでいます。心エコー法には経胸壁心エコー法と経食道心エコー法がありますが、当院ではそのどちらでも 3D エコーが可能です。リアルタイム 3D エコー図法は、心臓の解剖や病変を立体拍動のままで表示し、より正確な病態の評価を可能にします。これまでのエコー装置による断層像は、検者が頭の中で実際の構造にイメージを置き換えて立体像を把握しており、熟練が必要でしたが、リアルタイム 3D エコー図法は瞬時に心臓の立体像が表示でき、あらゆる心疾患への応用が期待されます。成人や小児の複雑な先天性心疾患の立体構造の把握や、弁膜症の評価、心腔内腫瘍や血栓などの全体像の診断、経過観察に有用な検査法です。



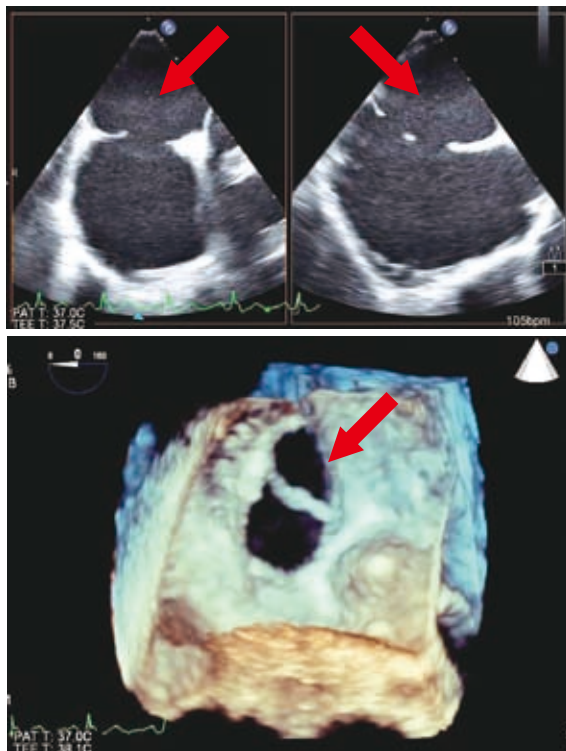
Philips iE33 リアルタイム 3D エコー



正常大動脈弁。三尖の弁が詳細に観察できます。



左房内粘液腫（心臓腫瘍）の症例。3D エコーでは球状になっている事が分かります。



心房中隔欠損症の症例。上の従来の 2D エコーでは断面図しか分かりませんが、3D エコーでは一度に欠損孔の全体像が把握できます。

看護学校だより

看護学校行事予定

平成 23 年 8 月 5 日 (金) に一日看護学生体験を行います!!



8 月の看護学生体験は、午前・午後に分けて行います。午前は小学校 5・6 年生と中学一年生、午後は中学 2・3 年生と高校生を対象としています。

より多くの方々に浜田医療センター附属看護学校を知っていただきたいと思っています。

ちなみに午前の部は、保護者の方も付き添い OK です。たくさんの方の申し込みを待っています!!

詳しくは、学校 HP か各学校へ送付させていただいたポスターをご覧ください。よろしくお願いします。

学生情報

59期生

入学して、3 ヶ月がたちました。
看護技術チェックも始まり、看護師に向けさらに専門的な学習を行っています。



58期生



6 月に老年看護学実習 I・小児看護学実習 I が終了し、今は学内で勉強に励んでいます。実習では多くの方にご協力頂きました。本当にありがとうございました。

57期生

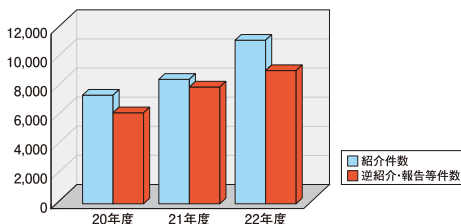
国家試験に向け、実習に講義に毎日頑張っています。



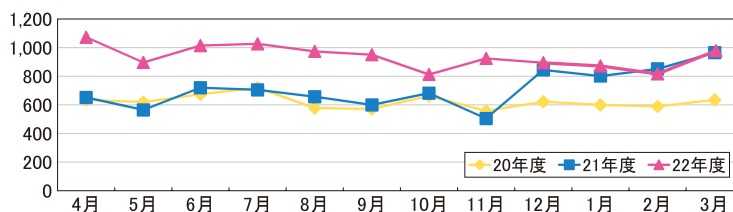
地域医療連携室からお知らせ

【前方連携】

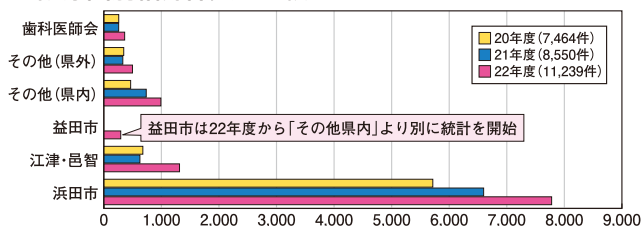
紹介・逆紹介報告等件数の年度別比較



紹介件数の年度別・月別比較

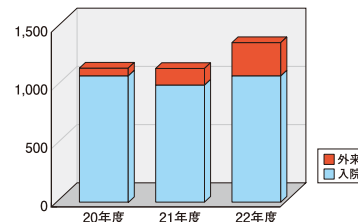


診療圏別紹介件数の比較



【後方連携】

外来・入院支援患者数の年度別比較



地域医療従事者（看護・介護）研修会について

毎回、多数のご参加をいただきありがとうございます。

今後の研修予定について、ご案内いたします。
ご来院の際は、患者用駐車場をご利用下さい。受付で無料券と交換いたします。（基本的に第2木曜日 18:30～19:30）

	日 時	テ ー マ	講 師
第3回	7月14日	NST（嚥下能力に合わせた食形態について）	NSTチーム 大下 言語聴覚士
第4回	9月 8日	リハビリテーション（転倒予防と生活リハビリ）	リハビリスタッフ
第5回	10月13日	褥そうケアについて（薬剤の種類と選択）	今若 副看護師長 皮膚・排泄ケア認定Ns
第6回	11月10日	医療者・介護者が媒介となりやすい“接触感染”～あなたの予防策、大丈夫？～	渡邊 副看護師長 感染管理認定Ns
第7回	12月 8日	誤嚥のサインと観察のポイント	呼吸器内科病棟 看護師
第8回	2月 9日	NST（在宅でできる栄養評価と対応）	栄養士

病院利用者の方からの声・対応

Q

病院内 1 階部分に、薬等を飲む水道があると助かります。

A

2 階食堂北側に設置しております紙コップ式の自動販売機の中に、無料でご利用いただける飲料水をご用意しました。



※病棟スタッフステーションのカウンターや待合室に意見箱を設置していますので、ご意見をお寄せ下さい。

編集
後記

東日本大震災から4ヶ月が経とうとしていますが、未だ収束の目処は見えてきません。一日も早い復興をお祈りいたします。

当院も被災直後には、医療班や看護班をそれぞれ被災地の支援に送りました。今回は、その活動状況の特集記事として記載し、またそうした中で取り組んだ災害訓練の様も載せています。

今年の夏も昨年と同様に猛暑が予想されます。電力不足が言われますが、こまめに水分を取り、部屋の温度が28度を超える前に冷房を入れるなどして、熱中症の予防に努めましょう。(HMC 99)